

2023年度 自己評価公表
 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷こども園こうのとり東

聖隷こども園こうのとり東 教育・保育理念

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

- * 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- * 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- * 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- * 在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する。

「保育者のための自己評価チェックリスト～保育者の専門性向上と園内研修の充実のために～」を使用し、職員が自己評価を行いました。自己評価の結果から見えてきた、園としての課題を次年度の取り組みにつなげていきたいと思えます。

	自己評価・課題
第1章 総則 「教育・保育の基本」	諸法令については、読み込んで理解するまでには至らない職員が多く、特に「～について説明できますか」という言語化に対して自信がもてない職員が多い。また、「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」についても同様に、言語化に関する設問に関して「いいえ」を選択している。園内での学びを通して言語化する試みを習慣とし、職員のスキル向上を図る必要を感じる。
第2章 「ねらい」及び「内容」	園内研修において、子どもの主体性についてディスカッション形式で学んでいる。今年度は「環境」にスポットを当て、子どもの発達に則した玩具だけでなく、保育室内の環境構成を子どもの生活と遊びを考慮して変更したりと各歳児ごとに様々な視点で子ども主体の環境づくりに取り組んでいる。保育の「ねらい」及び「内容」の実現に適した最善の環境を整えることを目的に、他園の見学や職員間での学びを積み重ねています。
第3章 健康及び安全	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人一人の保育に生かすように努めている。薬の与薬依頼の際は留意事項の確認を確実に行ったことが目視で確認できるような形式を変更したり、ホクナリンテープの扱いについて職員間で改めて認識を統一したり、常に「健

	<p>康及び安全」について見直しを図っている。学校保健安全法やガイドラインなど踏まえた対応方法を園内研修において職員に知らせていく必要を感じている。</p>
第4章 子育て支援	<p>在園保護者に対しては、懇談会や日々のコドモン配信、送迎時の会話を通して子どもについてお互いが考えられるような機会を持っている。送迎が両親ではなく祖父母の家庭もあるのでそれぞれの立場を考慮した会話を丁寧に行なっていく。</p> <p>また地域における子育て支援に関しては、月1回の子育て支援ひろば「ぽっかぽか」を地域の子育て支援の拠点として今後も取り組みたい。</p>
第5章 職員の資質向上	<p>キャリアアップ研修にはできるだけ多くの職員が参加できる機会を作り、保育の知識を得たり、子ども理解が進むように努めた。研修で学んだことを他職員に報告する時間がなかなか作れないことが課題である。他にも様々な学びの機会として、他園の保育見学やクラス単位での環境構成の学びを繰り返してきた。保育環境の大切さに気づき、少しずつではあるが保育室内の環境を変化させたり、子どもの食事形態を変えたりと試行錯誤している現状である。職員自身も自分の保育を振り返り、子どもへの接し方や声掛けなどを意識することが増え、職員の資質向上に繋がっていると考える。</p>
全体として	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も引き続き、園内研修で子どもの主体性についての学びをディスカッションを通して深めている。「子どもの主体性を生かす保育環境とは」という内容で、子どもの主体性が育まれる環境について意見交換を重ねながら実践に移している。経験年数に捉われず、多様な職員の意見を保育に取り入れ、子どもの生活（遊びを含め）を大切に出来る環境を整えることが出来るよう、職員一人一人が子どもの前に謙虚さを忘れず、自身の保育を振り返る事が保育の質を高める一歩になると考える。 ・専門職として、子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うことが求められ、社会的にも注目を浴びている。“人権”という直接的な言葉ではないが、設問の中には子どもの人権に繋がる項目もあり、職員が自分自身の言動を振り返ったり、同僚からの気づきを得ることで意識が高まっていくと感じる。